

アルゼンティン
ラ・プラタ大学獣医学部研究計画
アフターケア調査団報告書

平成12年12月

国際協力事業団

序 文

国際協力事業団は1989(平成元年)年3月から5か年間にわたり、アルゼンティン共和国の基幹産業の一つである牧畜業の発展に資するために、「アルゼンティン・ラ・プラタ大学獣医学部研究計画」を、また1994(平成6年)年3月から2か年間にわたり、フォローアップ協力を実施しました。

今般、アルゼンティン政府は、ラ・プラタ大学獣医学部の臨床系講座の強化を目的としたアフターケア協力を、我が国に要請してきました。

国際協力事業団はこの要請を受け、2000年(平成12年)11月6日から11月17日まで、東京大学大学院農学生命科学研究科教授 小野憲一郎氏を団長とするアフターケア調査団をアルゼンティン共和国に派遣しました。

同調査団は、当初協力終了後4年半あまりが過ぎたラ・プラタ大学獣医学部の研究活動の現状を調査するとともに、アフターケア協力の必要性について、ラ・プラタ大学関係者と協議を行いました。その結果、2001(平成13年)年4月1日から2年間にわたってアフターケア協力を行うことで合意し、ミニッツの署名を取り交わしました。

本報告書は、同調査団による調査結果及び協議結果を取りまとめたものであり、今後アフターケアの実施にあたって、関係方面に広く活用されることを願うものです。

最後に、本調査の実施にご協力、ご支援を頂いた内外の関係各位に対し、心から感謝の意を表します。

平成12年12月

国際協力事業団

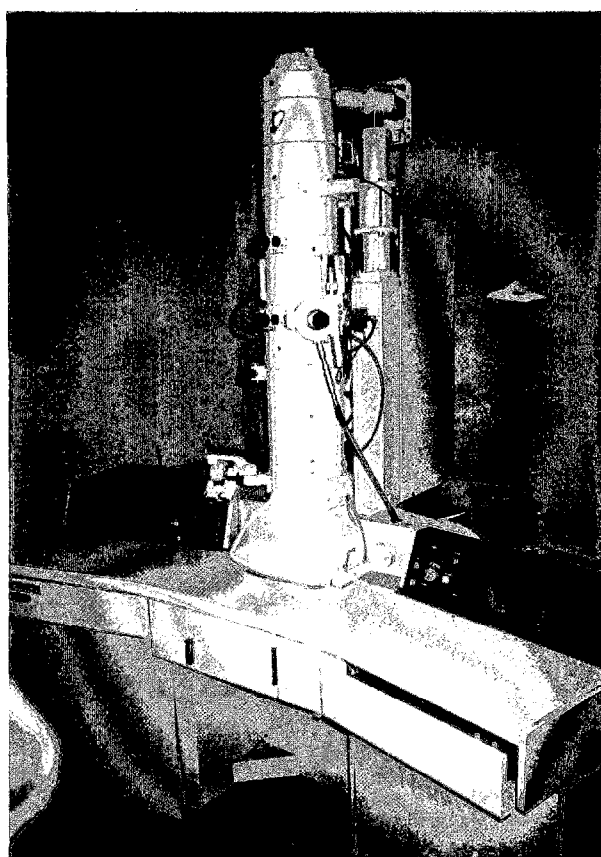
理事 後藤 洋



教育省表敬



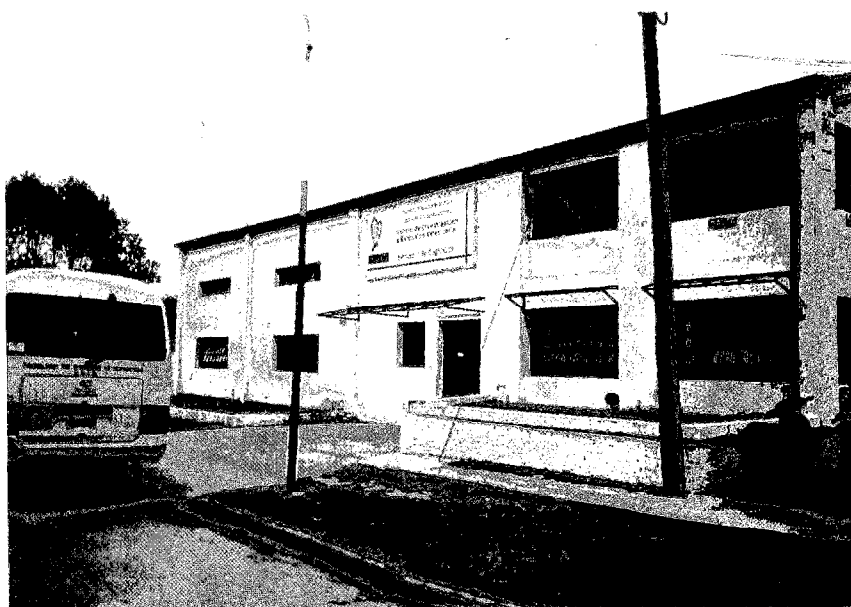
ラ・プラタ大学獣医学部家畜病院



当初協力で供与した電子顕微鏡



当初協力で建設した
実験動物舎内



チャスコムス診断研究センター
(CEDIVE)



CEDIVE近隣牧場



カウンターパート研修員候補者
に対する面接



ミニッツ最終協議



ミニッツ署名式

アルゼンティン共和国の行政区分



目 次

序 文

写 真

地 図

1. アフターケア調査団の派遣	1
1－1 調査団派遣の経緯と目的	1
1－2 調査団の構成	2
1－3 調査日程	2
1－4 主要面談者	3
2. 要 約	4
3. 調査結果	6
3－1 概 要	6
3－2 カウンターパートの定着状況	6
3－3 供与機材の管理及び使用状況	6
3－4 施設の整備、管理及び使用状況	6
3－5 チャスコムス診断研究センター(CEDIVE)	7
3－6 臨床関連講座の活動状況	7
4. アフターケア協力計画の協議経過	8
4－1 アフターケア協力計画の基本的考え方	8
4－2 アフターケア協力計画の内容	8
4－3 ミニッツ協議経緯	9
5. 専門分野別活動内容	12
5－1 ラ・プラタ大学獣医学部の現状と問題点	12
5－2 アフターケア協力における活動内容	13

付属資料

1. 協議議事録(ミニッツ英文、西文)	17
2. 供与機材候補リスト	34
3. 関連講座一覧	35
4. 講座別実施予定活動内容	36
5. 実験動物舎概要	38
6. CEDIVE概要	60